

| | | | |
|---|-----------|--|---------|
| 科目区分 | 統合分野 | 授業科目 | 臨床看護の実践 |
| 講師名 | | 実務経験の有無 | 有 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 開講年次 | 3年次 |
| 目的：臨床の状況に対応するための判断力と看護実践の基礎的能力を習得する。 目標：1 複数の対象の看護展開の特徴を理解し、ニーズと状況に応じた看護援助が実践できる。 2 対象の状態に応じた看護援助を実践し、看護実践能力の到達度を評価できる。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 単元 | 時間 | 内容 | |
| 1 複数対象への看護実践 | 15 | 1 複数の対象の看護展開の特徴 1) 身体・精神・社会的側面の状態を予測する 2) 根拠に基づいた状況判断 3) 優先順位の決定と対処 2 看護業務の特徴 1) 多重課題 3 複数対象への看護の実際 ※1 1) 複数対象の状況に合わせた看護の優先順位の決定 2) 複数対象のニーズに応じた看護援助を実践する 3) タイムマネジメント 4) 状況に対応する(予定変更 複数の行為 複数の人とのかかわり) | |
| 2 OSCE | 15 | 1 OSCE(客観的臨床能力試験)オリエンテーション 2 課題の実施 3 OSCEの実施※2 【キーワード】 寝衣交換 移動の援助 清潔の援助 包帯法 フィジカルイグザミネーション 環境調整 点滴静脈内注射の管理 膀胱留置カテーテルの管理 酸素療法の管理 | |
| 評価方法 | | シミュレーション、OSCE(客観的臨床能力試験)、レポート、参加状況・態度等 | |
| テキスト | | メディカ出版 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ | |
| 参考資料 | | | |
| 履修上の留意事項 | | 予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。 3年間の学びを統合し、患者に適した看護を考えること。 | |
| 備考 | | ※1はシミュレーションを行う。 「複数対象への看護の実際」では、二人の患者の事例に対し看護援助を実践する。 ※2はOSCE(客観的臨床能力試験)を行う。 4つの学習課題の中から1つをOSCEとして実施する。 | |

| 科目区分 | 専門分野 | 授業科目 | 救急看護 |
|--|-----------|--|------|
| 講師名 | | 実務経験の有無 | 有 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 開講年次 | 3年次 |
| 目的：救急看護の対象の特徴と救急看護に必要な基礎的知識・技術を習得する。 目標：1 救急看護の役割と救急看護の場について理解できる。 2 救急看護を受ける対象の特徴を理解できる。 3 救急看護の実際に必要な知識・技術を理解できる。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 単元 | 時間 | 内容 | |
| 1 救急看護の概念と対象 | 4 | 1 救急看護とは 1) 救急看護の定義と役割 2) 救急看護師と救急看護の専門性 3) 救急看護の課題と展望 2 救急医療体制 1) 救急医療システム 2) 救急搬送システム 3) 救命の連鎖 4) メディカルコントロール 3 救急看護と法的・倫理的側面 1) 関連法規と救急看護 2) 倫理面への配慮 4 救急患者の特徴 1) 発症原因の多様性と状況 2) 心理的特徴 5 救急患者家族の特徴 1) 家族システムへの影響 2) 心理・社会的特徴 3) 家族のニーズ 4) 代理意志決定支援 | |
| 2 救急患者への看護の実際 | 10 | 1 救急看護の実際 1) 一次救命処置 ※1 2) 二次救命処置 (1) 救急患者の観察とアセスメント (2) 緊急度・重症度の判断と治療の優先順位 (3) 補助器具による気道確保 (4) 補助器具による人工呼吸 (5) 補助器具による循環系救命処置 (6) 人工呼吸器の管理 (7) 救急時の検査 (8) 救急医薬品 (9) 体温管理 3) 中毒への対応 4) 熱傷への対応 5) ショックへの対応 | |
| | 1 | 試験 | |

| | |
|--------------|---|
| 評価方法 | 筆記試験、参加状況・態度等 |
| テキスト | 医学書院 別巻 救急看護学 |
| 参考資料 | |
| 履修上の 留意事項 | 予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。 |
| 備考 | ※1は演習を行う。 一次救命処置の演習では、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用 方法を行う。 |